

R1.10.25	医師会	JCHOは共通の電子カルテを導入予定では？	JCHOクラウド型電子カルテにいずれ移行するが、今回は独自での導入となる。
R1.10.25	利用者	整形外科常勤医が着任予定だが、今後は手術も可能か。	今までも非常勤医で手術を行っていたが、今後は本格的に行っていく。 患者数も増える見込みのため、休床している病棟をオープンしたい。
R1.10.25	医師会	看護師はどのように確保するか。	本部と相談し、一時的に別の病院から数名派遣いただくことになっている。その後、当院での採用を続け、元の病院に戻ってもらう予定。
R1.10.25	医師会	災害医療は、医師会とさいたま北部医療センターが拠点となって対応していきたい。	駐車場の一面でトリアージを行い、必要な患者の入院を受け入れていきたい。
R1.10.25	利用者	お祭り等での救護係や公開講座を開催してもらい感謝している。地域住民と交流することがさいたま北部医療センターの存在意義だろう。住民になくてはならない病院ということアピールしてもらいたい。	今年度は、9/5のハッピーフェスタきたまち、10/20のさいたまKITA祭りに救護班を派遣した。公開講座は、計7回開催予定。 引き続き、地域住民との交流を深めていきたい。
R2.3.11	医師会	さいたま市大宮休日夜間急患センターの電子カルテについて、補助の方が付いてくれ大きな問題がなく安心した。しばらくは補助の方を配置して欲しい。	補助者は、当面、平日は20時頃まで常駐するようにし、土日祝日もできる限りサポートしたいと考えている。3月については、日曜、祝日は業者、土曜は当院職員で対応することとしている。4月以降は、当院職員と派遣職員で当面サポートをしていく予定である
R2.3.11	関係医療機関	新型コロナウイルスへの対応状況は。	新型コロナウイルスについて、当院では対応困難なため、発熱後心配な患者は、帰国者・接触者相談センターに電話するよう促しているが、相談なしで発熱患者が来院してしまったら別室で診察をしている。今後も感染が拡大し、当院でも診療せざるを得ない場合、防護服とアイガードの確保が一番の問題となる。
R2.3.11	医師会	救急受入患者数が年間2,000件を超えると点数を与えられるようだがいかがか。	毎月約100件なので、年間1,300~1,400件。要請を断っている例も見受けられるが、依頼件数が増加し受入れ率も向上してくれば、2,000件にも手が届くと考えている。
R2.3.11	利用者	引き続き住民向けの公開講座を定期的にお願したい。	新型コロナウイルス感染防止対策として現在中止しているが、収束したら再開したい。